

第2回白井市学校給食センター運営委員会会議録

○会議日程

令和7年3月5日（水）

白井市学校給食センター2階研修室

1. 開会

2. 報告事項

(1) 令和6年度学校給食センターの事業実施状況について

(2) 令和6年度（第1～3四半期）PFI事業運営業務報告について

3. 議題

(1) 令和7年度学校給食センターの運営方針について

4. その他

5. 閉会

○出席委員等

委員 柴倉 良男

委員 倉敷 まりえ

委員 青龍 良子

委員 山口 貴弘

委員 永井 英朋

委員 堀江 真由美

委員 尾見 英明

委員 西田 倫代

委員 大村 由香

委員 井上 美幸

○欠席委員等

委員 鳥海 善貴

委員 佐藤 正斉

委員 宗政 隆雄

委員 増子 直文

○出席職員

教育部参事 大高

学校給食センター所長 山本

学校給食センター 宇田川

学校給食センター 松村

午後2時00分 開 会

○委員長 学校給食センター管理規則により委員長を務めさせていただきます。お手元の次第に沿って進めていきます。

初めに報告事項1、令和6年度学校給食センターの事業実施状況について、事務局から説明をお願いします。

○事務局 報告事項1、令和6年度学校給食センターの事業実施状況について説明させていただきます。資料1を御覧ください。

1番目、学校別給食提供数について、こちらは令和7年2月3日現在を記載しております。現在、学校給食センターでは、市内の小学校9校のうち1校、中学校5校のうち4校に給食提供しております。

食数としましては、小中学校合計で4,952食、卵、乳を除去したアレルギー食は15食、牛乳のみの停止が47食、牛乳のみの提供が9食、弁当持参が2名となっております。

また、給食センターの職員などを含めたセンター全体での給食提供食数としましては、約5,050食を提供しております。

続きまして、給食と食に関するアンケート結果については、栄養士から説明させていただきます。

○事務局 2番、給食と食に関するアンケートの結果について御説明します。市内、小学校5年生、中学校1年生の約1,090人を対象に、給食と食に関するアンケート令和6年度を12月に実施しました。別紙1を参照してください。

アンケートの内容としましては、給食は好きですか、給食は残さず食べますか、給食で白井市産や千葉県産の農産物を使っていることを知っていますか、苦手な食べ物がありますかなどについて質問しました。

給食は好きですかの問いでは、全体の約8割以上の児童生徒が「はい」と回答し、その理由としては、おいしいから、友達と食べることができて楽しいから、お腹が空いているからの順になっています。

また、「いいえ」と回答した小学生14.3%、中学生13.1%の理由としては、嫌いなものが出るから、おいしくないから、量が多いからの順となっています。小学生に比べ中学生のほうが1.2ポイント多く、給食が好きと回答しています。

給食は残さずに食べますかの問いでは、「残さず食べる」と回答した小学生は43.4%、中学生は55.1%でした。「時々残す」「いつも残す」を合わせた割合は、全体の約4割強から5割となります。

理由としましては、嫌いなものが出るから、時間が足りないから、量が多いからの順となっています。

給食では食育の観点から、様々な食品を食べる経験を増やす、成長期に必要な栄養の確保、バランスの良い食事を基本に考え、学校教育の一環として給食を提供しています。

続きまして3、給食の食べ残しについてです。

学校給食センターでは、毎日給食の食べ残し量を計量しています。学校により若干残菜率に違いはありますが、平均で小学校18.0%、中学校11.6%の残菜率となっています。

また、学校給食センターでは残菜を減らす取組として、栄養指導の実施、そして残菜の多いメニューの味付けの工夫や新メニューの開発。また、ICTを活用し、調理作業の映像を学校で視聴できることで、喫食

を促すなど、学校と連携を図りながら取り組んでいます。

続きまして4、食物アレルギー実態調査の結果についてです。

市内の小中学校 14 校の食物アレルギー実態調査を実施しました。食物アレルギーについて、食材別アレルギーの調査を毎年実施しています。食物アレルギーを持つ小学生は 289 名、中学生 130 名、合計 419 名で、全体の 1 割弱の児童生徒が何らかの食物アレルギーを持っていることが分かりました。

食材別アレルギーの調査では、小中ともに卵のアレルゲンを持つ児童生徒が最も多く、次いで小学生では落花生、くるみ、キウイフルーツ、乳製品。中学生では、えび、落花生、乳製品、かに、いくらの順となっています。

エピペンや薬を所持している小学生は延べ 43 名、中学生は 11 名でした。

食物アレルギー等により給食を停止している児童生徒は 2 名、飲用牛乳を停止している児童生徒は 47 名となります。

また、学校給食を提供する中で、給食を配膳する際に該当する食品を除去するなどの対応をし、給食を食べている児童生徒は 108 名となります。

なお、給食センターでは、アレルゲン配合表にて食物アレルゲンを表示しており、現在は、特定原材料の卵、乳、小麦、えび、かに、そば、落花生の 7 品目に、大豆を加えた 8 品目の表示をしています。令和 7 年度 4 月からは、くるみが表示義務に加わったことから、合わせて 9 品目について表示します。

今年度の調査で、くるみをアレルゲンに持つ児童生徒は、小中合わせて 51 名であり、増加傾向にあることが分かりました。

以上で報告事項 1、令和 6 年度学校給食センターの事業実施状況について説明を終わります。

○委員長 ただいまの事務局からの説明について、御意見、御質問等ございましたら、挙手をお願いします。

○委員 アンケートの 4 番目、2 で「いいえ」と答えた人は、その理由を 3 つまで選んでくださいの回答数が、「いいえ」と答えた人が 3 個答えた人よりも超えてしまっているのはなぜでしょうか。

○事務局 こちらは複数回答にしているので、1 人の子がいろいろな理由を書いております。

○委員 小学生も中学生も同じだと思ったのですけれども、2 で「いいえ」と答えた人は、時間が足りないからと答えていないのですけれども、時々残す理由で時間が足りないからという理由が 155 とか 100 とか人数がいるのは、給食が好きと答えた人が時間が足りないと答えているというアンケートの答えでいいですかね。

○委員 そういう解釈でいいと思います。多分給食が好きなのだけれども、時間が足りなくて残さざるを得ないという、そういう考え方でいいと思います。

○委員 実感が湧かなかったので、子供に聞いてみたのですが、給食をどれぐらいの時間で食べているかを聞いたら、大体小学生は 25 分、中学生も 25 分と言っていました。25 分だと、給食が嫌いな人が食べきれないというか、余ってしまうのだけれども、好きな人は 25 分だと食べきれないというボーダーラインなのかなと思いました。

○委員 当初、アンケートの意図としては、「いいえ」と答えた人だけが、その後答えていくという感じですか。

○事務局 そうではなく、「はい」と答えた人も、「いいえ」と答えた人も全員が答えられる回答になっています。

○委員 アンケートを作った方の思惑としては、どちらなのですか。全員が全部を答えていい感じなのですか。それとも、「はい」と答えた人と「いいえ」と答えた人、そこからまた振り分けていくという感じですか。

○事務局 「給食は残さず食べますか」という問いは、全員に聞いています。「はい」と答えた子も、「いいえ」と答えた子も全員が答えるようになっているので6番は、「はい」と答えた人も回答することになりますね。

○委員 多分5と6の兼ね合いというか。4番までの質問と、6番目の質問の兼ね合いでこんな感じになったと思うので、自分が深読みしている可能性はあります。給食の時間問題は、いろいろ考えたいですね。

○事務局 参考までの数字とさせていただければいいと思います。

○委員 分かりました。

○委員長 ほかに何かありますか。

○委員 そもそもこのアンケートの目的は何ですか。目的によって、この内容を重視するかしらないか、そんなに考えなくてもいい内容かもしれないし、とても重要だったらアンケートなど、時間があれば残さずに食べますかとか、アンケートの質問を1個加えればいいのかもしいかなと思いますしと思いました。

○事務局 こちらのアンケートは、第3次しろい健康プラン食育推進計画という計画がありまして、それに基づく実施評価となるアンケートになります。これは毎年、よりよい給食の提供をするために、小学校5年生と中学校1年生を対象にアンケートをしているところです。

○委員 このアンケートの結果は、参考として、よりよい給食を提供するためには何をどうすべきかを考えるという意味なので、そういうスタイルにこだわらなくてもいいのかもしれないですね。

○事務局 実態の把握を目的としてアンケートを調査しています。

○委員 毎年このアンケートを取られていて、その中で必ず多分嫌いなものが出てきたり、おいしくないからとか、そういう意見というのは絶対に出ているように思うのですが、そこから一步踏み込んで、じゃあ嫌いなものとは何だろうとか、おいしくない原因は何だろうとか、そういったところの調査はやったことはありますか。

○事務局 同じアンケートの中で、数字で表せない部分もあります。質問9番で、給食で野菜を使った好きなメニューの質問や、10番では、給食について希望があれば書いてください、という質問もあります。こちらの回答はたくさんあるので今回の資料として入れてないですが、それは献立作成の参考としています。給食で嫌いなメニューは聞いていないのですが、苦手な食べ物は11番で聞いています。毎年野菜、きのこ類が多いです。あと残菜の傾向を見たり、子供たちの食べている様子を実際に見たりというところで把握をしています。

○委員 それによって、またメニューの変更もされているということですか。

○事務局 味付けを少し変えたり、作り方や調理工程でもう少し柔らかくしようとか、歯ごたえがあるように調理しようなど工夫をしています。

○委員 ありがとうございます。

それともう一つ、「太りたくないから」というのがずっと気になっていたのですが、これは本当に太っている子が、これ以上太りたくないからという子は仕方ないとして、実際太っていないのに、痩せたくて食べないという子の中にはいらっしゃるかなと。そういう子がいた場合の指導というのを学校側でしているのでしょうか。その辺はどうでしょうか。

○事務局 このアンケートの回答した子に直接というのは、こちらからはできないです。

○委員 アンケートだから、お名前とかも分からないですね。

○事務局 そうですね。あとは、各学校で養護の先生もいらっしゃるので、先生、どうでしょうか。

○委員 誰か特定できれば、その子に直接お話ができたりはするのですが、特定できないと思うので、全体に対して、いわゆる食育とか、給食の指導のときに、小中学生は栄養が必要だから食べないといけないという話はしております。

特に、個別に分かった場合は、給食はきちんと栄養のことを考えられて作っているし、体にとって必要なので、食べるようにしましょうという指導はします。

○委員長 全体に対して話をされてください。極度にダイエットをしたことで、体を壊してしまった子を私は見てきているので、それが心配です。

○委員 今の話を聞いて、お腹が空いていないから、給食は好きですかに「いいえ」と答えた人が、小中10%ぐらいいるのですが、この人たちは朝御飯を食べているのですか。

朝は食べ過ぎて空いていないのか、そもそも少食なのか。10人に1人がそれって、子供っていっぱい食べるイメージがあります。

○事務局 学校で、給食前にお話をするとき、お腹空いている人を把握するために、聞くのですが、手を挙げるのは、全員ではないですね。何人かはお腹が空いていないため、手を挙げない子は何人かいます。体を動かす活動が少ないのか、もしかしたらあまり動かない、おとなしい子がそうなのかと思います。午前中に何か少しでも体を動かす時間が少しでも取れば、空腹感が出ておいしく給食も食べてもらえるのかと思います。

担任の先生がそれを感じ取って、少し体を動かしたり、発言を多くさせて声を出したりすると、お腹が空く感覚が出てくると思います。

○委員 心配ですね。

○委員 実際に朝食を食べないで来るという子もいないですか。これは、どうしてかというとお母さんが寝ているからとか、それこそ冬の朝寒いときに、自分でストーブをつけて温めて、適当にその辺にある菓子パンを食べて出てくるなんて子もいましたし。家庭によっていろいろなのですけれども。こればかりは家庭の問題なので、口出しできない部分で。それは学校だよりか何かで家庭に協力をお願いするしかないのではないかなと思います。

○委員 数年前にうちの子が通っていた学校で、給食委員が残菜率を減らそうという取組で、給食前の休み時間に体を動かす体操のようなのを考えてやっていたことがあります。給食を食べるために体を軽く動かす教室でできるような体操だったと思うのですが、子供たちも給食を食べようとして体を動かすので、給食へ

のモチベーションが高まるのか、少し効果があったようなことを聞いたことがあります。やっぱり活動すると食べたいとか、給食を残さず食べようという意識が高まるというので、相関があると思います。給食委員がいろいろ考え出した案で取り組んだことで、子供たちの意識が高まったのを子供から聞いたので、各学校でもこのように子供たちが取り組めればいいなと思いました。

○事務局　すごくいいアイデアですよ。

○委員　子供たちが自ら編み出して、いろいろ取り組んでいたと聞き、みんなで残さず食べようだけではなくて、どうやったら給食に対して前向きに取り組めるか、食べやすくなるかというのを給食委員の子供たちが考え出したらしいです。

○委員　大人から言われるよりも、自分たちで考えてやるほうがいいのかもかもしれませんね。

○委員　上級生が他の学年のクラスへ行って、そういう体操をするという活動が一時期あったみたいです。そういうのは、すごく効果的なのかなと思いました。

○事務局　ぜひ、ほかの学校でも言ってみます。

○委員長　そうやって広められたらいいですね。ほかに何かありますか。

　　続きまして、報告事項2、令和6年度（第1四半期～第3四半期）PFI事業運營業務報告ですね。事務局から説明をお願いします。

○事務局　それでは、報告事項2、令和6年度（第1四半期～第3四半期）PFI事業運營業務報告について報告いたします。資料2を御覧ください。

　　学校給食センターについては、PFI事業として、学校給食センターの建設工事を含んだ施設整備、開業準備、建物の維持管理、給食の調理業務を含んだ運營業務について、事業者と令和16年7月末までの契約を締結し、運営を行っています。この資料の中で、主なものについて御説明させていただきます。

　　まず、事業者の実施運營業務としましては、給食業務として、給食で使用する食材の検収業務、調理、洗浄、給食の運搬及び回収、残菜及び廃棄物処理、配送車両の維持管理などを行っています。そのほか、教育研修や衛生管理業務を行っています。

　　続いて、運營業務の実施状況ですが、従業員については、令和7年2月現在、各学校の配膳員を含め87名。給食の実施日数については、令和6年4月から12月までで141日。給食提供数については、基本食で67万9,068食、アレルギー除去食は2,261食。1月あたり約4,900食提供しております。

　　次に、事業者を支払う委託料についてですが、維持管理や運營業務にかかる固定料金と、食数により変動する変動料金で構成されており、四半期ごとに支払いを行っています。

　　4ページを御覧ください。令和6年度につきましては、12月までの第3四半期までで、固定料金と変動料金の合計が約2億1,639万1,000円となっております。市と事業者においては、毎月1回、運營業務等について維持管理運営協議会を開催し、業務の進捗状況や課題、問題点などの協議を行っています。

　　報告事項については以上となります。

○委員長　ただいまの事務局からの説明について、御意見、御質問等ございましたら挙手をお願いします。

○委員　変動料金の内訳の基本食、単価6.17というのは、何の数字ですか。

○事務局　1食当たりの基本食の単価です。

○事務局 基本食を作るための単価です。

○事務局 手間賃と云っていいのか、工賃といえますか、そういった料金になります。

○委員 食品とは違うのですか。

○事務局 食品とは違います。調理員が基本食を作るための手間賃、工賃、となります。

○委員長 ほかにありますか。なければ次に行きますが、よろしいですか。次に行きます。

議題1、令和7年度学校給食センターの運営方針について、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 議題1、令和7年度学校給食センターの運営方針について説明させていただきます。資料3を御覧ください。こちら資料の修正があります。

(1) 令和7年度給食提供数及び給食費のところの1食当たりの単価のところ、追加をお願いします。今、291円と343円と記載されているかと思うのですが、小学校児童が1食当たり260円、教職員が291円となります。中学校の生徒が310円、教職員が343円となります。申し訳ありません、修正をお願いいたします。

それでは、こちらの議題としては、運営方針となっておりますが、令和7年度における学校給食の提供数及び給食費に係る内容となっております。

まず令和7年度の給食提供数ですが、小学校、中学校ともに189回を予定しております。給食費については今年度、給食費の改定を行い、小学校500円、中学校600円の値上げを行いました。この増額分については、今年度同様、来年度においても保護者の負担とはせず、市が負担することとし、保護者の負担軽減を図っていきます。

また、前回の会議の中でもお話しさせていただいたのですが、経済的に負担の大きい学年から給食費無償化を検討していくと、市長が9月議会で公表しました。関係各課との協議や調整を行い、令和7年4月から、塾や部活動などの負担の大きい中学生の給食費無償化を実施します。

それから引き続き、(2)の第3子以降の学校給食費無償化につきましても、来年度も継続して実施をしていきます。

この保護者の負担軽減につきましては、現在開催しております3月議会にて、承認を得たのち保護者の方たちにお知らせをしていく予定です。

もう一つ、こちらに記載がないのですが、現在自校式給食であります桜台小学校、中学校の給食については、令和7年9月から、給食センターからの提供となります。それに伴いまして、夏休みに給食室の改修工事、それから配送者や配膳員のリハーサル等を行い、9月からの給食開始に向け準備を進めてまいります。

議題1の報告は以上です。

○委員長 ただいまの事務局からの説明について、御意見、御質問等ございましたら挙手をお願いします。

事務局から、その他何かありますか。

○事務局 特にありません。

○委員長 以上で、本日予定していた案件は全て終了いたしました。御協力ありがとうございました。

それでは、事務局へお返しいたします。

午後2時45分 閉会